

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

2002年度



2003年3月

富山県小杉町教育委員会

例　　言

1. 本書は、平成14年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を文化財保護係長 高橋登が担当し、生涯学習課長 御後庄司が総括した。
3. 本書に収録の調査は、生涯学習課文化財保護係の原田義範・稻垣尚美が行った。
4. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力を頂いた。記して謝意を表したい。
(敬称略五十音順)
桜川孝則・杉谷トモエ・小杉町赤田土地区画整理組合・小杉福祉会・北陸マーケット開発株式会社・喜多良明
5. 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
6. 本書の編集・執筆は原田・稻垣が行った。

目　　次

1. 平成14年度の概要	1	赤田 I 遺跡 (No. 3 - 3)	10
2. 分布調査	2	赤田 I 遺跡 (No. 3 - 4)	10
3. 試掘調査	3	赤田 I 遺跡 (No. 3 - 5)	10
高山遺跡 (No. 1)	4	赤田 I 遺跡 (No. 16)	11
千田遺跡 (No. 2)	5	塚越大沢遺跡 (No. 12)	11
水蔵場 I 遺跡 (No. 8)	5	池多 I 遺跡 (No. 13)	12
赤田 I 遺跡 (No. 3 - 1)(No. 3 - 2)	6	橋下条小学校跡地 (No. 14)	12
愛宕遺跡 (No. 4)	7	赤田東遺跡 (No. 15)	13
中山南遺跡 (No. 5)	7	4. 本調査	14
黒河西山遺跡 (No. 6)	8	赤田 I 遺跡 [No. 1]	14
塚越大沢遺跡 (No. 7)	8	日宮城跡 [No. 2]	15
石切谷池 A 遺跡 (No. 9)	9	5. 普及・活用	16
石切谷 B 遺跡 (No. 10)	9	※遺跡名右側の()が試掘、[]が本調査の一覧表の番号を示す。	

凡　　例

1. 本文中における発掘区図版の試掘トレントの記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりである。

● 縄文土器 ▲ 石器・石製品 □ 弥生土器 ▽ 土師器 △ 須恵器 ■ 珠洲
□ 中世土師器 ◎ 木製品 ○ 中世無釉・施釉陶器 ◇ 鉄滓 × 近世無釉・施釉陶器
T トレント

※ 表紙写真は赤田 I 遺跡 [No. 1] 出土の土師器壺と綠釉陶器

1. 平成14年度の概要

小杉町が、平成14年度に実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・現地確認調査が18件、試掘調査16件、本調査2件であった。事業計画と調整が図れなかった赤田I遺跡の本調査および報告書作成については、原因者である小杉町赤田地区画整理組合が委託した民間発掘調査会社と町職員1名とで対応した。その他の事業に関しては町職員2名が本調査と調整を図りながら分布・現地確認調査および試掘調査に対応し、これに伴う事務処理を行った。また、14年度に行った本調査における報告書作成に取り組んだ。



第1図 調査位置図 (1:50,000)

2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地及び未踏査区域で行われる公共事業をはじめとする民間による各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議し事前に分布調査を実施している。

分布調査とは、調査員が現地を踏査し遺物の散布状況及び地形から埋蔵文化財包蔵地の範囲を推定する調査で、埋蔵文化財包蔵地内であると判断された場合は試掘調査を行うことになるが、埋蔵文化財包蔵地外であると判断された場合は開発を実施してよいこととなる。

本年度の調査依頼件数は18件すべてが民間事業で、その内訳は、個人住宅・農作業場・車庫などの建設8件、宅地造成5件、資材置場・駐車場造成3件、その他2件である。昨年度と比較すると調査件数は増加しているが、大規模な開発がなかったため対象面積は減少した。

周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図（1万分の1）に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けられており、分布調査によって新たに発見された遺跡は登載され、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No.	所在地	原因	調査日	対象面積	対象地の種別	現況	採集遺物	開発への対応
1	西高木573-2	住宅敷地拡張	H14. 4.23	185 m ²	未踏査地	標高1.2mの畠地及び庭	なし	支障なし
2	戸破字四反田1028-4 外1筆	駐車場造成	H14. 4.23	1,255 m ²	未踏査地	標高5.2mの 盛土造成地	なし	造成済みのため 踏査不可
3	黒河513	駐車場造成	H14. 4.30	2,834 m ²	未踏査地	標高4.6mの水田	なし	支障なし
4	浄土寺331-1外2筆	資材置場建設	H14. 4.30	669 m ²	未踏査地	標高17m 既存資材置場	なし	支障なし
5	黒河字尺目2386-3	個人住宅建設	H14. 5. 8	66 m ²	未踏査地	標高13m 既存宅地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議
6	上野221外2筆	公民館広場 駐車場建設	H14. 6.10	1,663 m ²	未踏査地	標高10m一部盛 土済みの荒蕪地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議
7	土代字宮ノ前1858 外1筆	農作業所建設	H14. 9. 2	283 m ²	未踏査地	標高20mの 荒蕪地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議
8	池多269-4	個人住宅建設	H14.11. 7	499 m ²	未踏査地	標高20m盛土 済みの畠地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議
9	戸破1452外1筆	宅地造成	H14.11.19	918 m ²	未踏査地	標高 5 m の水田・ 畠地	なし	支障なし
10	黒河字三谷4590-1 外4筆	宅地造成	H14.11.19	263.2 m ²	未踏査地	標高 9 m の畠地	なし	支障なし
11	戸破1532	宅地造成	H14.11.19	42 m ²	未踏査地	標高 5 m の水田	なし	支障なし
12	戸破1531	宅地造成	H14.11.19	82 m ²	未踏査地	標高 5 m の水田	なし	支障なし
13	戸破1454	宅地造成	H14.11.19	366 m ²	未踏査地	標高 5 m の 荒蕪地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議
14	黒河387	農作業場建設	H14.12. 4	297 m ²	未踏査地	標高 7 m の水田	なし	支障なし
15	土代字三度山1335-2	個人住宅建設	H15. 1.22	49 m ²	未踏査地	標高21mの 既存宅地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議
16	下条1358	車庫建設	H15. 1.31	226 m ²	未踏査地	標高 6 m の 既存宅地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議
17	下条1156・1157	今後の土地利用 に先立ち	H15. 2.27	503 m ²	未踏査地	標高6.56mの 水田	土師器4点 須恵器2点 現代陶磁器1点	支障なし
18	山本新背戸444-3	青空駐車場建設	H15. 3.24	83 m ²	未踏査地	標高35mの畠地	なし	開発の際、遺構・ 遺物が発見された 場合協議

計18件 延べ12日 対象面積10,283.2 m²

表1 現地確認・分布調査一覧

3. 試掘調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地内で行われる公共事業をはじめとする民間の各種開発に先立ち関係機関や事業者と協議し事前に試掘調査を実施している。

試掘調査とは、対象地にトレーンチと呼ばれる試掘溝を掘削する。試掘溝とは幅約0.8m～1.0m程度、深さは状況に応じ調査員が判断する溝状の穴を言う。この試掘溝を調査対象地の立地や面積にあわせて設定し、重機あるいは人力によって掘削し、状況によっては一部面的に掘削し、より多くの情報が得られるよう勧めている。

試掘溝の断面および平面を精査し観察することによって、遺構の発見及び遺物の出土層位を確認し、遺構・遺物の面的な広がりと、旧地形を把握する事により、遺跡の範囲を推定することを目的とする。

試掘調査の結果により、遺構・遺物がまったく認められない場合は計画どおり開発を実施して良いと判断する。遺構・遺物が認められた場合は本調査の対象となるが、開発の仕方等により本調査を行わない場合もある。

本年度の調査依頼件数は16件13遺跡で、昨年に比べおよそ2倍の件数である。その内訳は公共事業・店舗建設3件、個人住宅・溜池拡張工事2件、アパート建設、土地区画整備事業・老人ホーム増設工事などがそれぞれ1件で、土地区画整備事業の対象面積は全体の約4割を占めた。調査の結果、本調査の必要が認められた3件については現在対応を協議中である。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	高山 (381070)	黒河字高山4737-7 外6筆	ドライブイン 建設	H14.4.11～15 (延べ3日間)	4,796.36m ²	358m ²	製鉄炉 散布地	焼壁土坑1	須恵器	一部記録保存実施
2	千田 (381199)	青井谷30-1	集荷施設 駐車場建設	H14.5.10 (延べ1日間)	1,125m ²	73m ²	集落	なし	弥生土器・須恵器 近世陶器	開発実施
3-1		下条1092-2外5筆	土地区画整備事業 (道路)	H14.4.17～ 5.10 (延べ10日間)	4,278m ²	802m ²	祭祀 散布地	溝	土師器・須恵器 古代土師器・ 珠洲・中世陶磁器	一部本調査実施
3-2		下条1092-2外168筆	土地区画整備事業 (宅地・店舗)	H14.5.27～ 6.10 (延べ10日間)	61,556m ²	1,952.8m ²	祭祀 散布地	溝・土坑	土師器・須恵器 古代土師器・ 珠洲・中世陶磁器	一部本調査 必要あり
3-3	赤田I (381301)	下条1322外1筆	土地区画整備事業 (宅地・道路・公園)	H14.9.3～4 (延べ2日間)	4,166m ²	174m ²	祭祀 散布地	溝1	土師器・珠洲	一部支障なし、 宅地部分の一部 標高5.26m以下 の掘削認めない
3-4		下条1309外5筆	土地区画整備事業 (宅地・道路)	H14.9.18～20 (延べ3日間)	616m ²	616m ²	祭祀 散布地	なし	土師器・須恵器 越中瀬戸	工事立会
3-5		下条1310外1筆	土地区画整備事業 (道路)	H14.12.3～4 (延べ2日間)	265m ²	265m ²	祭祀 散布地	溝1 土坑1	土師器・須恵器 珠洲・越中瀬戸 青磁・白磁	工事立会
4	愛宕 (381002)	三ヶ635-1	農家住宅建設	H14.6.7 (延べ1日間)	955m ²	51m ²	散布地	なし	土師器・珠洲	開発実施
5	中山南 (381036)	太閤山1-28	アパート建設	H14.6.10～12 (延べ3日間)	401.58m ²	31m ²	集落	住居跡1 柱穴3	古代土師器 須恵器	一部本調査 必要あり
6	黒河西山 (381041)	黒河字小谷4629	擁壁及び盛土	H14.6.20 (延べ1日間)	800m ²	45m ²	製鉄 散布地	溝2	須恵器・土師器 鉄滓	開発実施
7	塚越大沢II (381078)	塚越字新堤235 外7筆	県営畠地帯総合 整備事業	H14.7.23 (延べ1日間)	720m ²	75m ²	製鉄	柱穴状小土坑4	なし	開発実施
8	水蔵場I (381210)	上野238-1外8筆	土地改良総合 整備事業	H14.9.6～10 (延べ2日間)	4,255m ²	149.5m ²	散布地	焼壁土坑1・土坑2 溝2・柱穴状土坑 1・豊型製鉄炉1	土師器・須恵器 鉄滓	工法により本調査 の必要あり
				H15.1.23 (延べ1日間)	780m ²	228m ²	散布地	土坑1 精鍊滓捨場	土師器・須恵器 炉壁・鉄滓	工事立会
9	切石谷池A (381234)	上野字瀧谷1217 外2筆	溜池拡張工事	H14.9.10～11 (延べ2日間)	5,450m ²	55m ²	製鉄	なし	なし	工事立会
10	切石谷池B (381236)	上野字瀧谷730 外1筆	溜池拡張工事	H14.9.10 (延べ1日間)	350m ²	19.5m ²	製鉄	なし	なし	開発実施
11	加茂社 (381028)	戸破3943	神符授与所新築 及び下水道配管	H14.10.3 (延べ1日間)	59m ²	59m ²	散布地	なし	なし(採集遺物 瓦)	工事立会
12	塚越大沢 (381078)	塚越字大沢 559-1, 563-1	店舗建設	H14.11.21 (延べ1日間)	676m ²	5m ²	製鉄	なし	なし	工事立会
13	池多I (381166)	池多831外5筆	特別養護老人 ホーム増設工事	H14.11.7～8 (延べ2日間)	4,208m ²	338m ²	祭祀 散布地	柱穴21 焼壁土坑2	なし	記録保存
14	-	下条1771	橋下条公民館建設	H15.2.19 (延べ1日間)	980m ²	93.5m ²	不明	なし	なし	開発実施
15	赤田東 (381053)	下条961外	町道二の井赤田線 道路整備事業	H15.2.20～21 (延べ2日間)	3,712m ²	246m ²	集落	溝 土坑8	土師器・須恵器 近世陶器・磁器	一部本調査 必要あり
16	赤田I (381301)	下条1292 外8筆	店舗建設	H15.2.28 (延べ1日間)	2,017.24m ²	656.98m ²	散布地	溝 土坑	土師器・須恵器	工事立会

計16件 延べ51日 対象面積102,166.18 m² 発掘面積6,293.28 m²

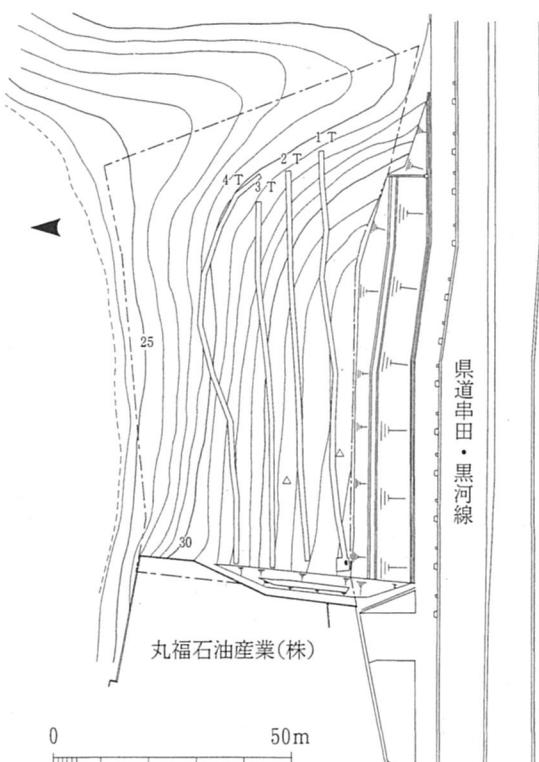
表2 試掘調査一覧

高山遺跡 (No. 1)

対象地は標高30.5m～39mの丘陵頂上付近から裾野に広がる南側斜面である。基本層序は1層が淡黒褐色土および腐葉土、2層は暗褐色土、3層が黄褐色土または明茶褐色土の地山となる。

確認した遺構は3層上面より検出した焼壁土坑1基のみであったので、その周辺を拡張し遺構掘りを行い記録保存を行った。

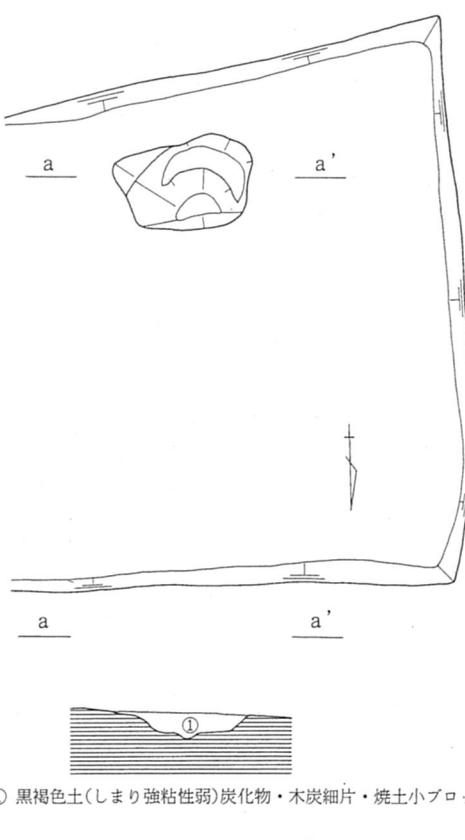
土坑の時代は出土遺物が伴わないので不明であるが、この丘陵一帯では、太閤山ランド内No.6遺跡や新造池B遺跡、水蔵場B遺跡をはじめとする古代生産遺跡において同様な土坑が多く見られる。



第3図 発掘区



第2図 調査位置図 (1:10,000)

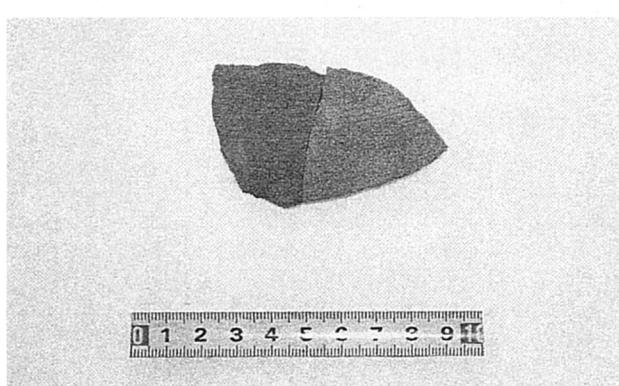


① 黒褐色土(しまり強粘性弱)炭化物・木炭細片・焼土小ブロック混在

第4図 土坑



P.L. 1 調査風景

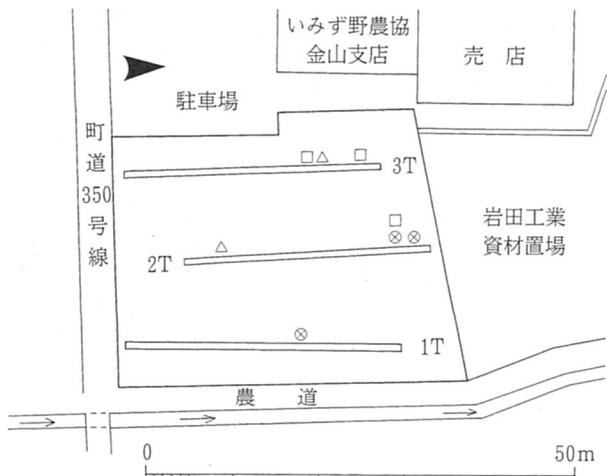


P.L. 2 出土遺物

千田遺跡 (No. 2)

対象地は浄土寺川と堰場川の合流地点より約200m上流の浄土寺川左岸、標高11mの両河川によって造られた扇状地上に位置する。

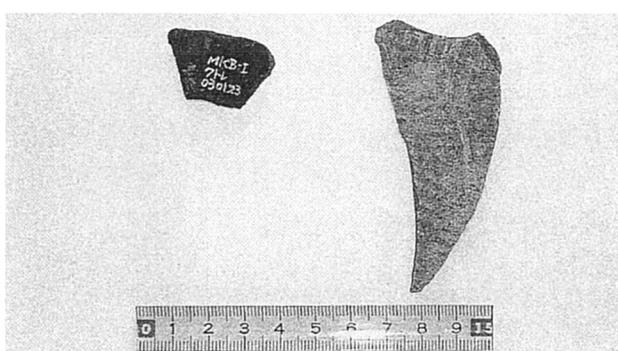
基本層序は、上から1層が淡黒褐色の耕作土、2層は暗灰褐色土、3層が黄灰褐色シルト質または黄茶褐色粘質土の地山となる。遺構は検出できなかった。遺物は、弥生土器・須恵器・近世陶器が出土した。



第6図 発掘区

水蔵場 I 遺跡 (No. 8)

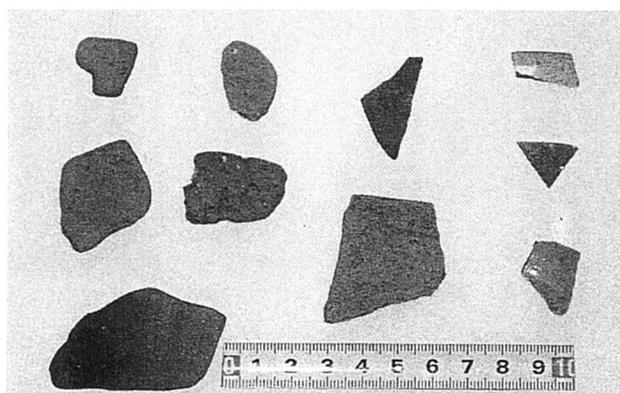
調査対象地は水田部分と斜面の竹林部分に二分される。水田部分の基本層序は、1層が暗茶褐色土または黄褐色土の客土、2層は灰茶褐色砂質土、3層は灰色砂質土、4層は腐植土混じりの黒色土、5層は水田のある谷に堆積した砂礫層となる。遺構の検出はなく、出土遺物は古代の土器片8点・鉄滓・土師器・須恵器が出土した。斜面部分の基本層序は、1層が暗茶褐色の表土、2層は黄褐色土の地山となる。遺構の確認は1層の表土下で焼壁土坑1基・溝状遺構2箇所・土坑3基を検出し、竪型製鉄炉の炉壁片が出土した。



P.L. 4 出土遺物



第5図 調査位置図 (1:10,000)



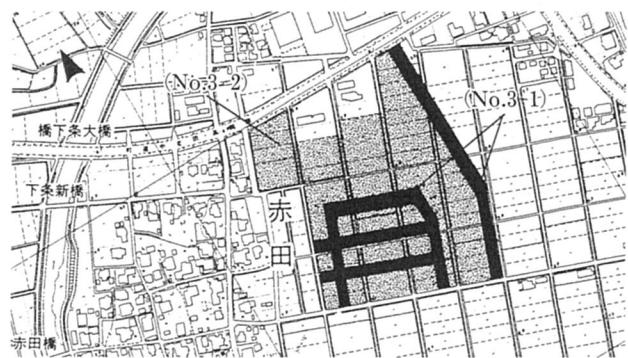
P.L. 3 出土遺物



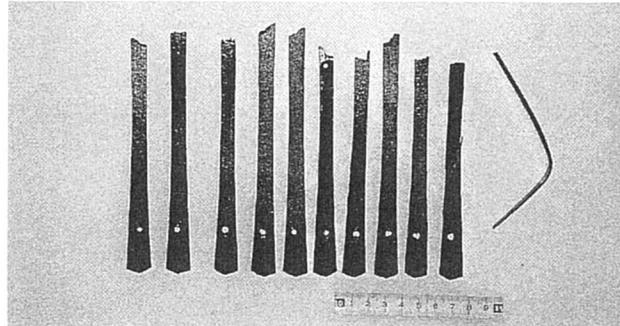
第7図 発掘区

赤田 I 遺跡 (No. 3-1) (No. 3-2)

古墳時代の溝と平安時代の溝を検出した。古墳時代の溝からは土師器、平安時代の溝からは塼や皿が約120点、扇の板、斎串、曲物などの木製品が出土した。塼や皿の中には墨書2点のほか赤彩されたものや、灯明皿として使用されていたものが多数含まれていた。今回の調査後、赤田 I 遺跡の遺跡名で埋蔵文化財包蔵地として登録した。



第8図 調査位置図 (1:10,000)



P L. 5 出土遺物



P L. 6 出土遺物

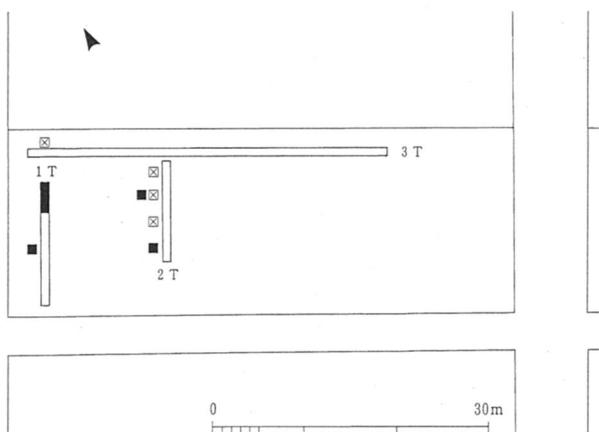


第9図 発掘区

愛宕遺跡 (No. 4)

対象地の現況は標高3.0mの水田である。

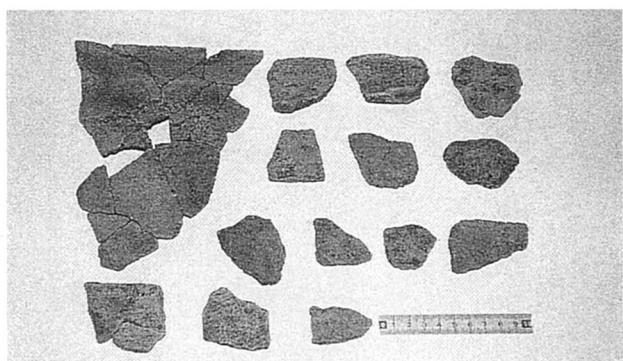
今回の調査では遺構を確認することはできなかった。遺物については耕作土中より著しく摩滅した土師器片4点、珠洲片3点が出土した。以上の状況から当地は散布地と判断され、おそらく近隣に集落等を伴う埋蔵文化財包蔵地があると考えられる。



第11図 発掘区

中山南遺跡 (No. 5)

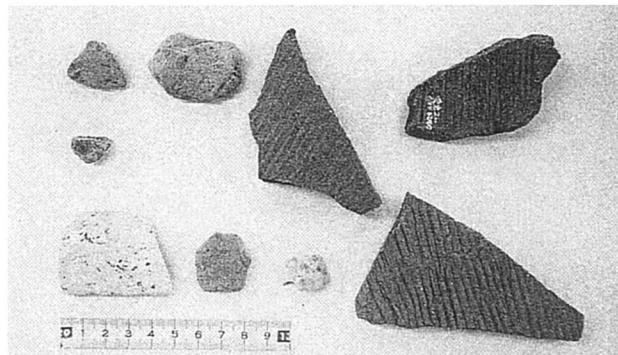
対象地の西側は標高17m、東は標高10mで、東側部分が県指定史跡中山南遺跡と接する。現在西側部分は県道太閤山・戸破線と同じ高さに削平されているが、元来は県道よりさらに西に丘陵頂上部があり、対象地は丘陵東側斜面の中腹であったと推測される。今回の調査では、ほぼ中央から西側は削平を受けており遺物・遺構は認められなかった。中央から東側部分（中山南遺跡隣接側）では、須恵器や土師器の遺物が出土した。遺構は甕を利用した竈を伴う住居や柱穴を検出した。協議の上、開発は中止され保存されている。



P.L. 8 出土遺物



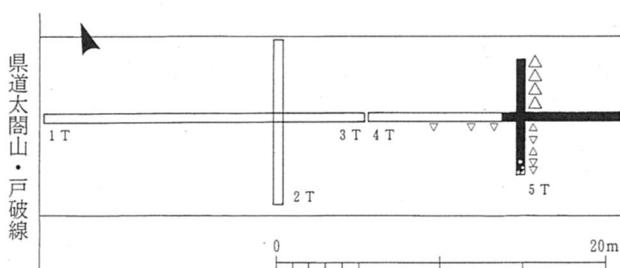
第10図 調査位置図 (1:10,000)



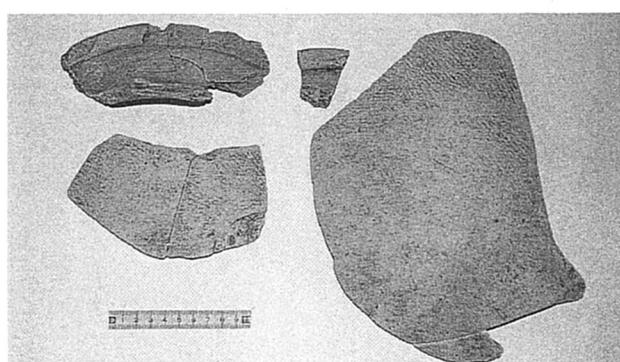
P.L. 7 出土遺物



第12図 調査位置図 (1:10,000)



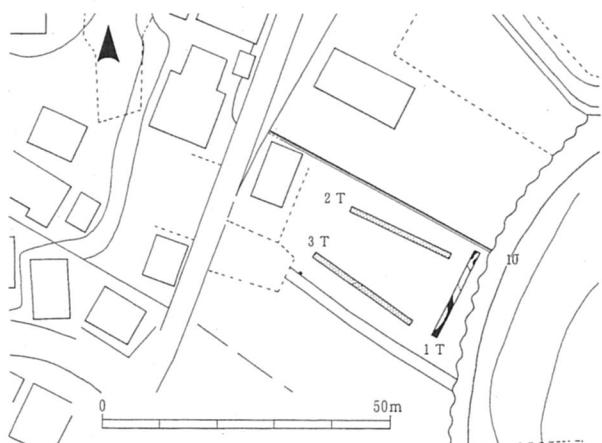
第13図 発掘区



P.L. 9 出土遺物

黒河西山遺跡（No. 6）

調査地は小丘陵に囲まれた幅約50mの谷間に位置する。神明社のある東側の小丘陵の先端付近からは須恵器窯跡の遺物が採集されている。須恵器はこの丘陵沿いに南北に流れる溝跡状に堆積した炭化物や焼土が混在する厚さ20cmの黒褐色土層から出土しており、前述の窯跡遺物と同一の窯で焼かれたと推定される。また、遺物の年代は8世紀後半（1200年前頃）と考えられる。



第15図 発掘区

塚越大沢遺跡（No. 7）

対象地の現況は標高11.8m～12.8mの竹林である。

基本層序は、上から1層が黒色の耕作土、2層は暗黄褐色の漸移層、3層が黄灰褐色または黄褐色粘質土の地山となる。遺構の確認は3層上面で行った。

遺構は直径20～30cmの柱穴状小土杭4基、風倒木痕2箇所を検出し、出土遺物はなかった。なお、遺構については、出土遺物がなく時期を決めるることはできなかった。



P L. 11 調査風景



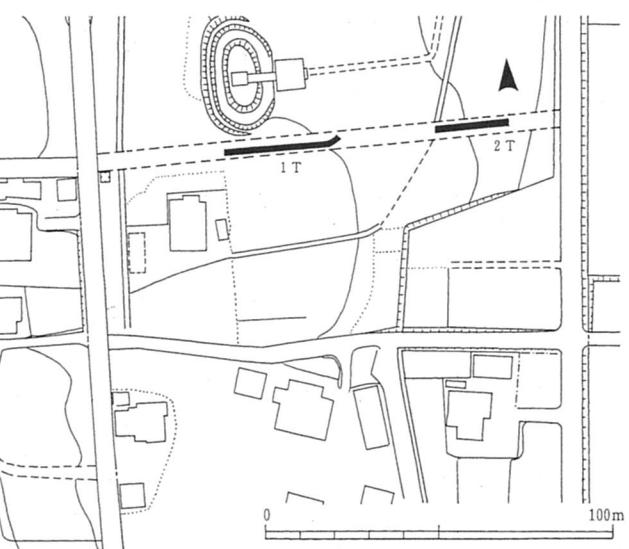
第14図 調査位置図 (1:10,000)



P L. 10 出土遺物



第16図 調査位置図 (1:10,000)



第17図 発掘区

石切谷池A遺跡 (No. 9)

対象地は標高28.0～34.0mに位置し、基本層序は1層が表土、2層は灰黄色砂質または粘質土、3層は地山となる。

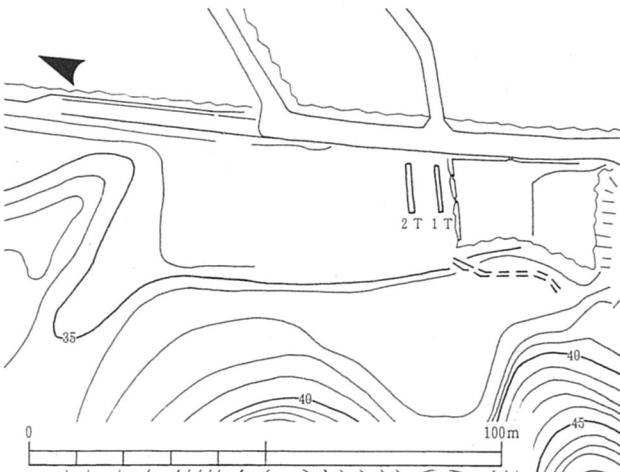
調査トレンチ箇所は溜池周辺部の池底面からは約60～100cmほど高い平坦面で丘陵端部から一段低くなったところに設定したが、遺構・遺物は確認することができなかった。しかし、造成区域が包蔵地の広範囲に及んでおり、全域でトレンチ確認ができなかったためこの結果だけで造成地内に遺構等が存在しないと断定できなかった。



PL.12 調査風景

石切谷池B遺跡 (No.10)

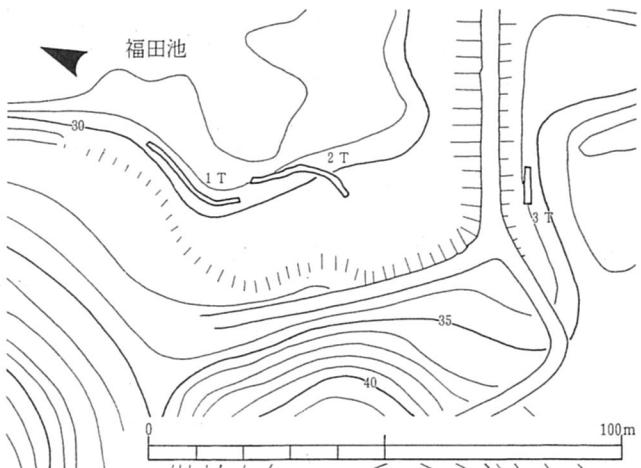
現況は標高30.5mの荒蕪地で、南西に隣接する丘陵の谷間に位置する。基本層序は、1層暗茶褐色土、2層灰黄色粘質土でその下層に砂礫が混在する。開墾時に山側土砂を掘削し、その土砂で谷を平坦に埋めたと考えられ、谷側ほど1・2層土の堆積が多くなる。遺構及び遺物が確認できなかったので、包蔵地外と考えられる。



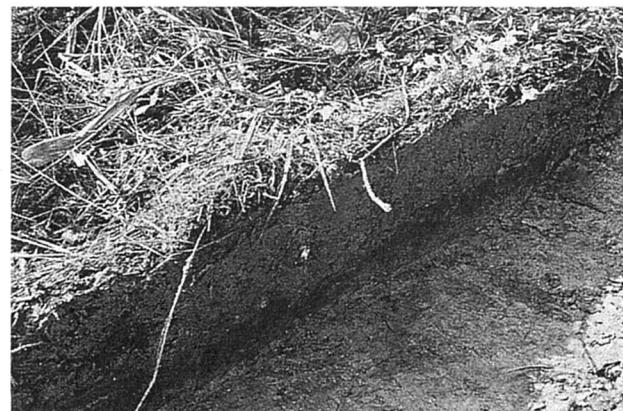
第20図 発掘区



第18図 調査位置図 (1:10,000)



第19図 発掘区



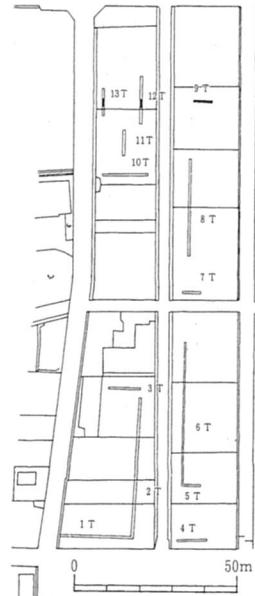
PL.13 調査風景



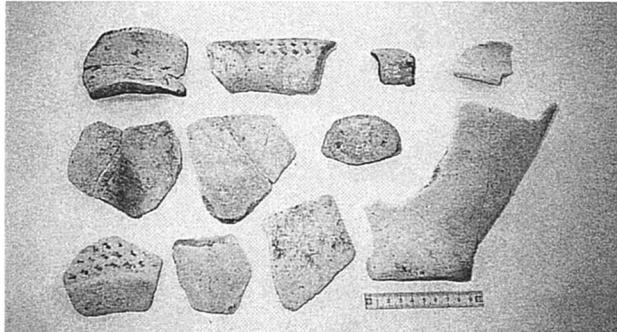
PL.14 出土遺物

赤田 I 遺跡 (No. 3-3)

9・12・13トレンチに幅80cm、深さ1mを測る東西に伸びる溝を確認した。溝からは投棄された大量の古墳時代後期の土師器が出土した。溝の形状から集落を取り囲む周溝の可能性があり、南側部分に比べ北側の地山が若干小高くなることから、北側に古墳時代の集落があるのではないかと推測される。10トレンチ以南からの遺構の検出はない。



第22図 発掘区 (No.3-3)



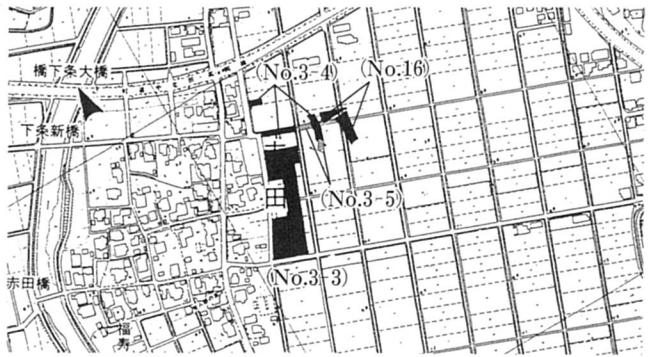
P.L.15 出土遺物

赤田 I 遺跡 (No. 3-4)

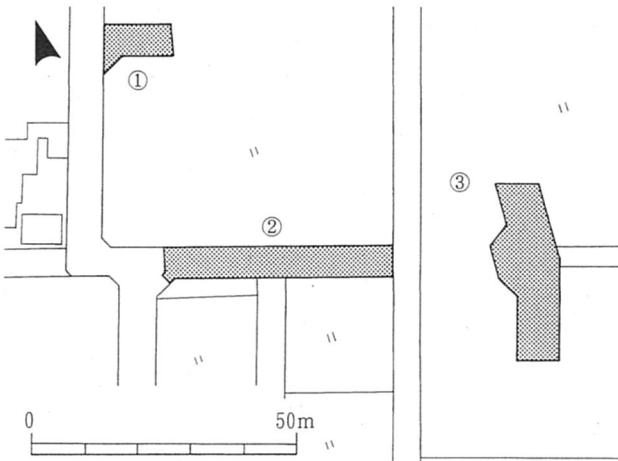
道路建設に先立ち①～③区の3箇所について調査を行った基本層序は、1層耕作土、2層暗茶褐色土、3層地山である。①区では遺構・遺物は確認されなかった。②・③区では、遺物包含層（2層）が良好に遺存していたが、遺構は確認できなかった。土師器・須恵器を中心とする古墳時代の遺物のほか越中瀬戸が出土した。

赤田 I 遺跡 (No. 3-5)

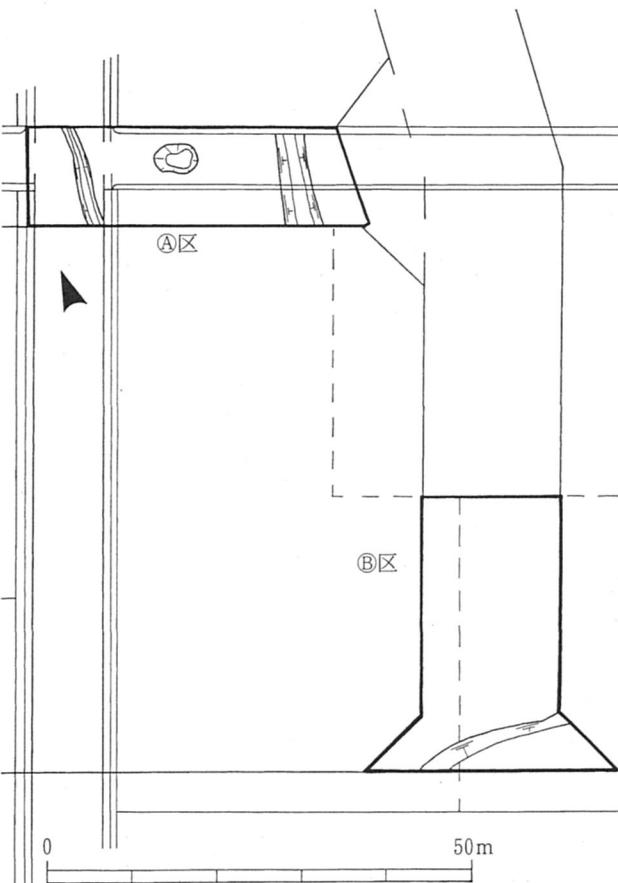
道路建設に先立ちⒶ・Ⓑの2箇所について調査を行った。基本層序は、1層耕作土、2層暗茶褐色土、3層地山である。遺構は3層上面より検出した。Ⓐ区から時期不明の溝1条と古墳時代後期の土坑1基が検出された。土坑内からは古墳時代後期の土師器甕がほぼ1個体出土した。特にⒶ区は遺物包含層の遺存状態が良好で、土師器・須恵器・珠洲・越中瀬戸・青磁・白磁が出土したが、Ⓑ区では遺構・遺物を確認することができなかった。



第21回 調査位置図 (1:10,000)



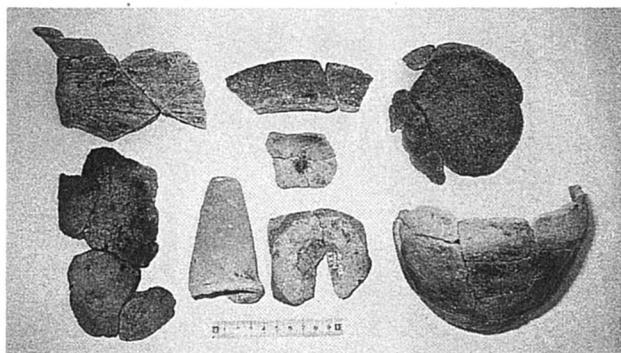
第23図 発掘区 (No.3-4)



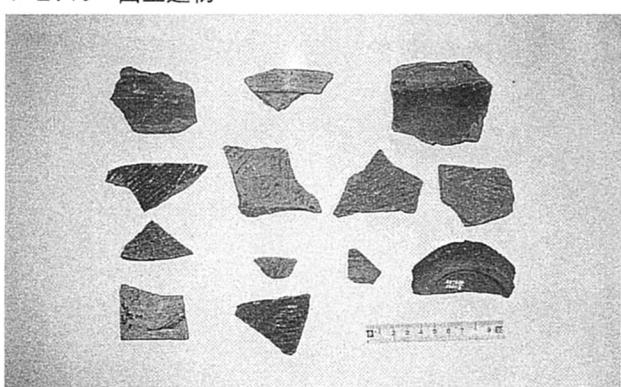
第24図 発掘区 (No.3-5)

赤田 I 遺跡 (No.16)

工事立会区域においてA・B棟の建設のための掘削工事において工事立会を行った。その結果、A棟予定地部分から溝1条、土坑2基を確認した。これらの遺構内からは土師器が出土した。また、包含層から土師器、須恵器、珠洲が出土した。B棟部分からは遺構・遺物を確認することはできなかった。



PL.16 出土遺物



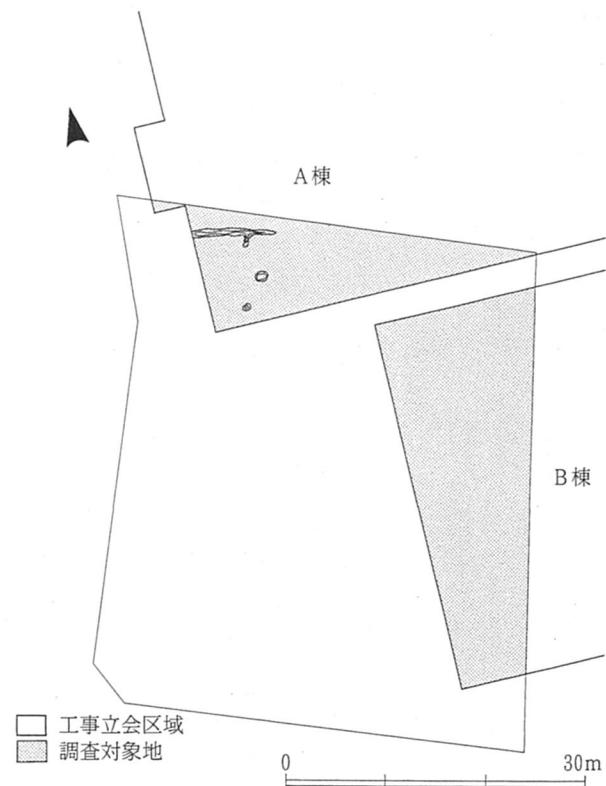
PL.17 出土遺物

塚越大沢遺跡 (No.12)

標高11.8~12.8mの竹林である。基本層序は、1層耕作土、2層暗黄褐色土、3層黄灰褐色土または黄褐色粘質土の地山となる。遺構の確認は3層上面で行った。直径20~30cmの柱穴状小土坑4基、風倒木痕2箇所を確認したが、土器などの出土遺物がなかったため時期を決めるることはできなかった。



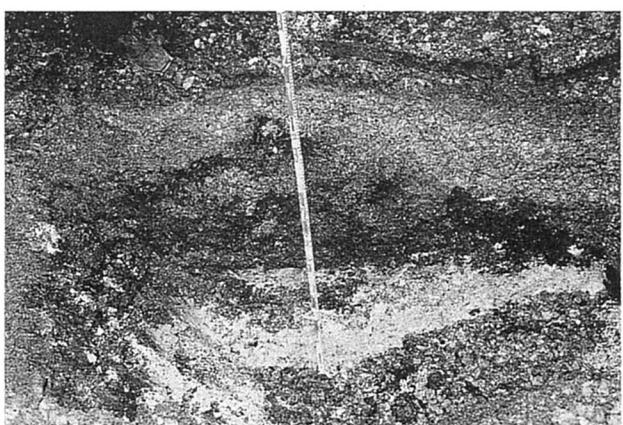
PL.18 調査風景



第25図 発掘区



第26図 調査位置図 (1:10,000)



PL.19 検出遺構

池多Ⅰ遺跡 (No.13)

標高20mの荒蕪地で、基本層序は、1層耕作土、2層地山となる。検出遺構は、柱穴21基、焼壁土坑2基で、遺物の出土はなかった。柱穴は、4～7トレンチにかけて検出したもので、いずれも上層が削平され深さ1～2cmを測る程度しか残存しないが、建物規模は6×5間でかなり大型である。焼壁土坑はいずれも削平は受けていないことから建物とは時期が異なると考えられる。



P.L.20 調査風景

橋下条小学校跡地 (No.14)

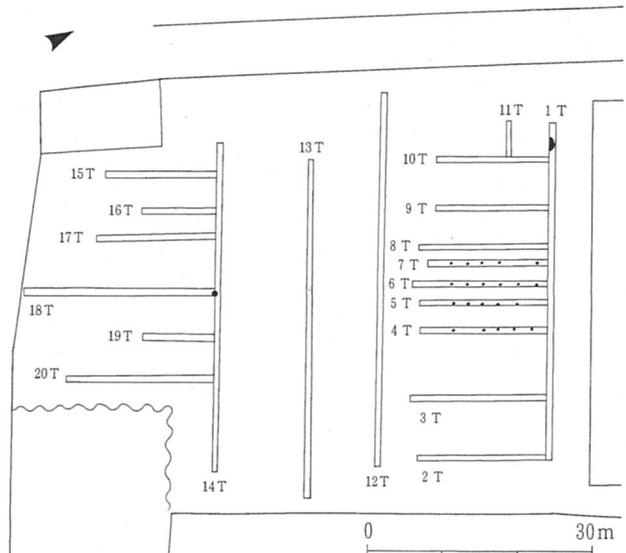
対象地は下条川右岸、標高7mの造成地である。1層の盛土直下に地山が堆積しており、橋下条小学校建設に伴う造成によると考えられる。また、1・2トレンチから木杭跡を数箇所確認したがこれも造成時のものであろう。以前から薬勝寺の全身があった可能性が指摘されていたが、削平により消滅した可能性は否定できないが、遺構・遺物がないことから対象地には存在しなかったものと考えられる。



P.L.21 調査風景



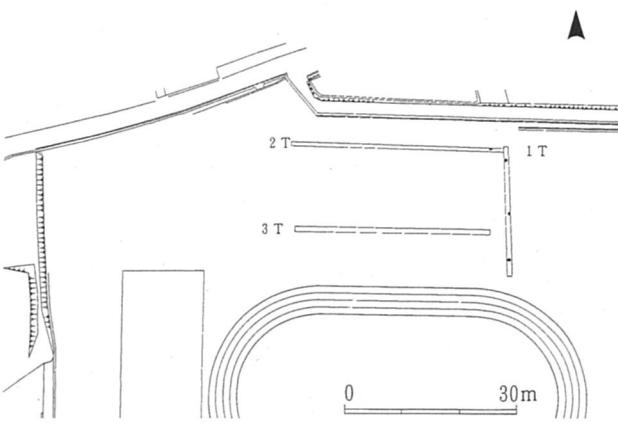
第27図 調査位置図 (1:10,000)



第28図 発掘区



第29図 調査位置図 (1:10,000)



第30図 発掘区

赤田東遺跡 (No.15)

現況は標高6.6～7.4mの水田である。基本層序は1層耕作土、2層淡黒褐色土、3層暗黒褐色土、4層黄褐色または青灰色粘質土となる。遺構確認面は4層となる。また、2層下に灰白色粘質土の堆積が部分的に見られた。

遺構は、東西方向に伸びる幅0.5～2.5mの溝5条と1トレンチ中ほど約22mの溝状遺構1箇所、直径0.3～1.5mの土坑8基を検出した。

遺物は、磨製石斧、土師器、須恵器、近世陶器、磁器が出土した。

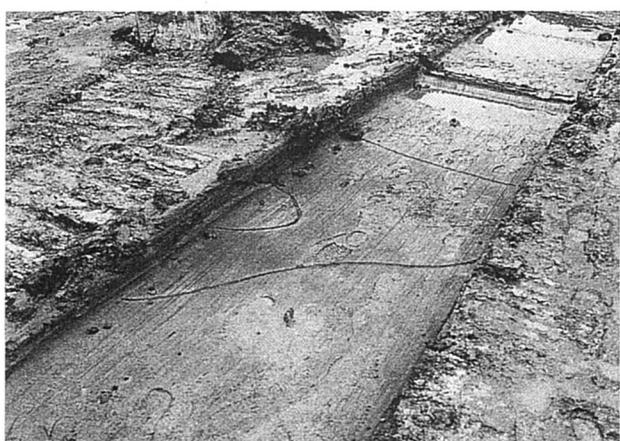
今回の調査で出土した遺物は古墳時代から近世までと多岐にわたるが出土量が多いのは古墳時代の遺物である。1トレンチ中ほどから南側と4トレンチ北端までに確認された溝や土坑からは、古墳時代の遺物が出土しており古墳時代の遺構と考えられる。



P L. 22 調査風景



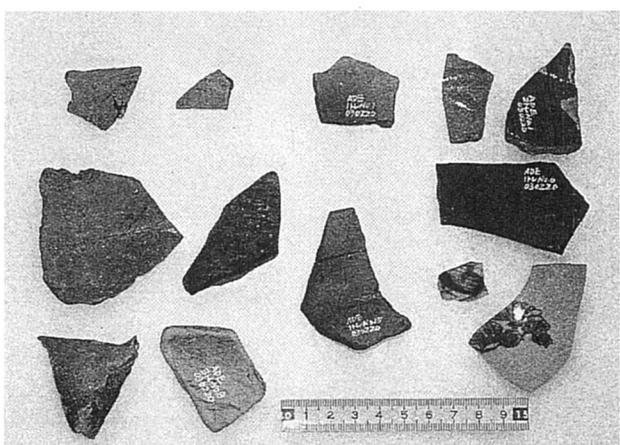
第31図 調査位置図 (1:10,000)



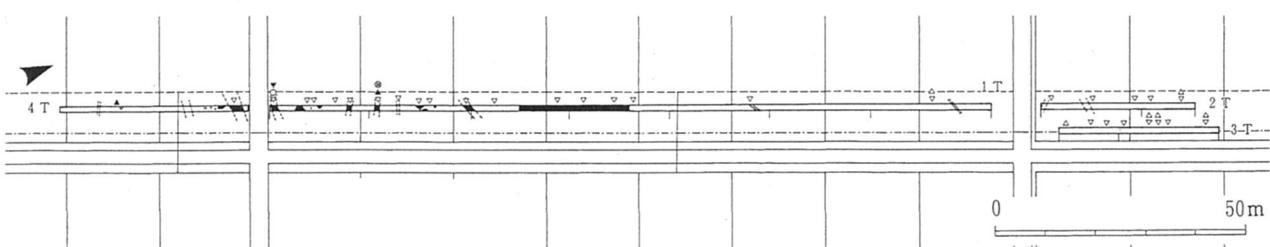
P L. 23 調査風景



P L. 24 出土遺物



P L. 25 出土遺物



第32図 発掘区

本 調 査

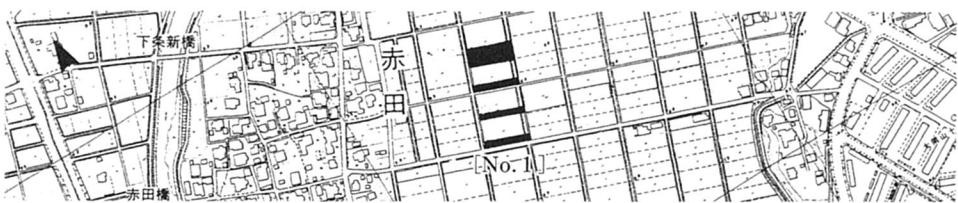
本年度、土地区画整理による宅地造成と個人住宅建設に先立つ本調査が2件あった。土地区画整理事業による赤田I遺跡については土地区画整理組合が発掘調査委託した民間業者と小杉町が調査を行った。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	検出遺構	出土遺物
1	赤田I (381301)	下条1092-2外	小杉町土地 区画整理事業	H14. 7.13~10.14 (延べ47日)	2,170m ²	堅穴住居 自然流路 土坑、溝	古墳土師器・平安土師器・ 緑釉陶器・斎串・杵・漆器・ 形代
2	日宮城跡 (381089)	日宮字寺山108外	個人住宅建設	H14. 8.29~12.25 H15. 2.24~3.17 (延べ72日)	2,204m ²	弥生大溝・土坑 戦国切岸・土坑 集石遺構・溝	弥生土器・かわらけ・刀子
計2件			延べ119日		発掘面積 4,374 m ²		

表3 本調査一覧

赤田I遺跡 [No.1]

土地区画整理事業に伴う宅地造成に先立ち、道路建設部分について南から1区、2区、3区、4区の4地点について 第33図 調査位置図 (1:10,000)

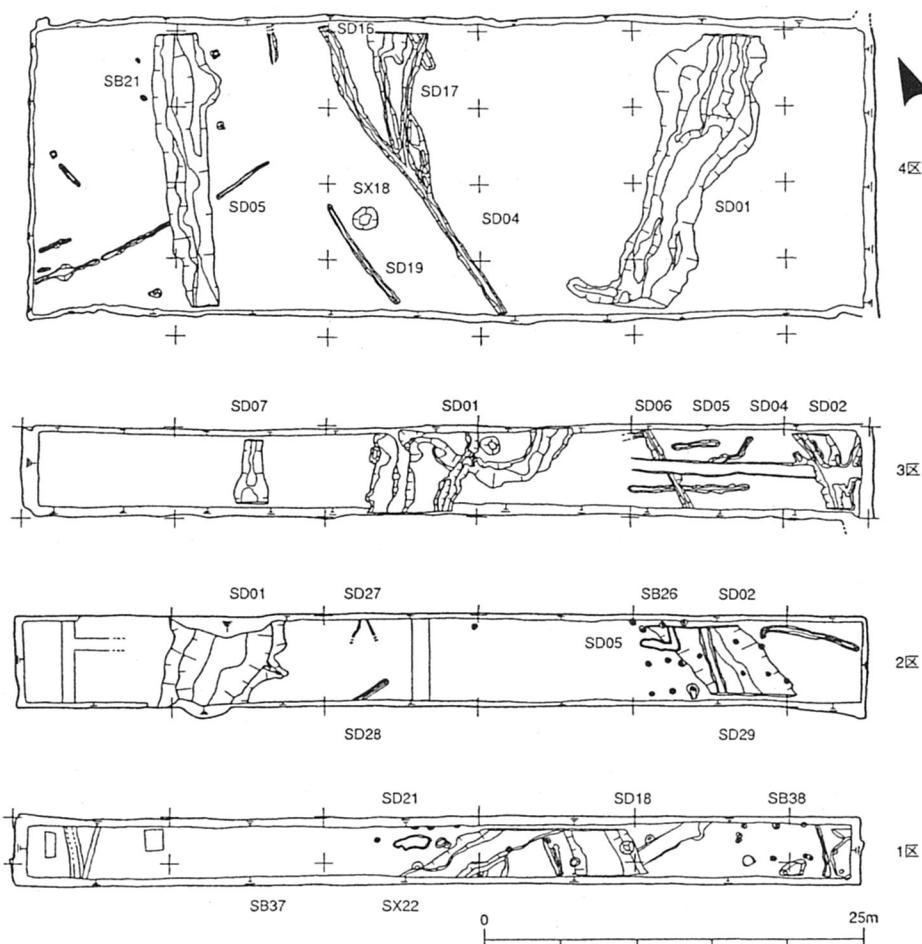


発掘調査を行った。1・2区

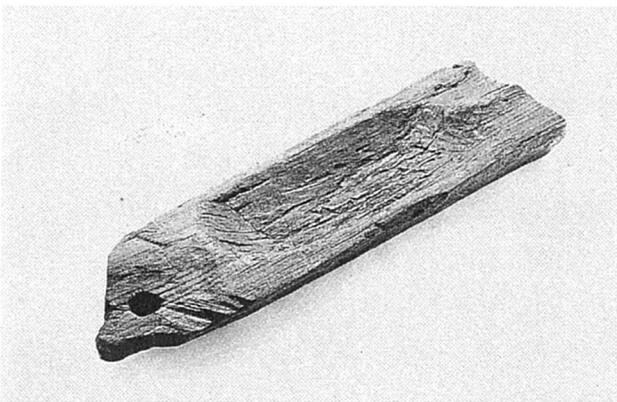
は民間調査機関が担当し、3・

4区は小杉町が担当した。

1区から堅穴住居1棟を確認したほか、2区から4区において北流する自然流路（SD01）を確認した。この自然流路は、幅4~7m、深さ1~1.5mを測り、3区では浅瀬に水を引き込むよう杭と筵状の織物を用い流れを堰き止める構造が川底に造られ、急激に川幅が広がり12mを測る。この川跡は、平安時代の祭祀跡で大量の遺物が出土している。特に3区からの出土が多く、遺物の多くが祭祀に関するもので、形代、斎串、漆器、用途不明の木製品、土師器、緑釉陶器が出土したほか、2区からは馬ではないかと推測される骨が出土した。



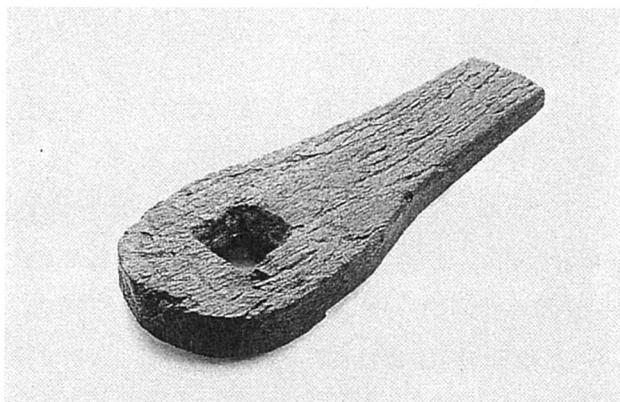
第34図 発掘区



P L. 26 出土遺物

日宮城跡 [No. 2]

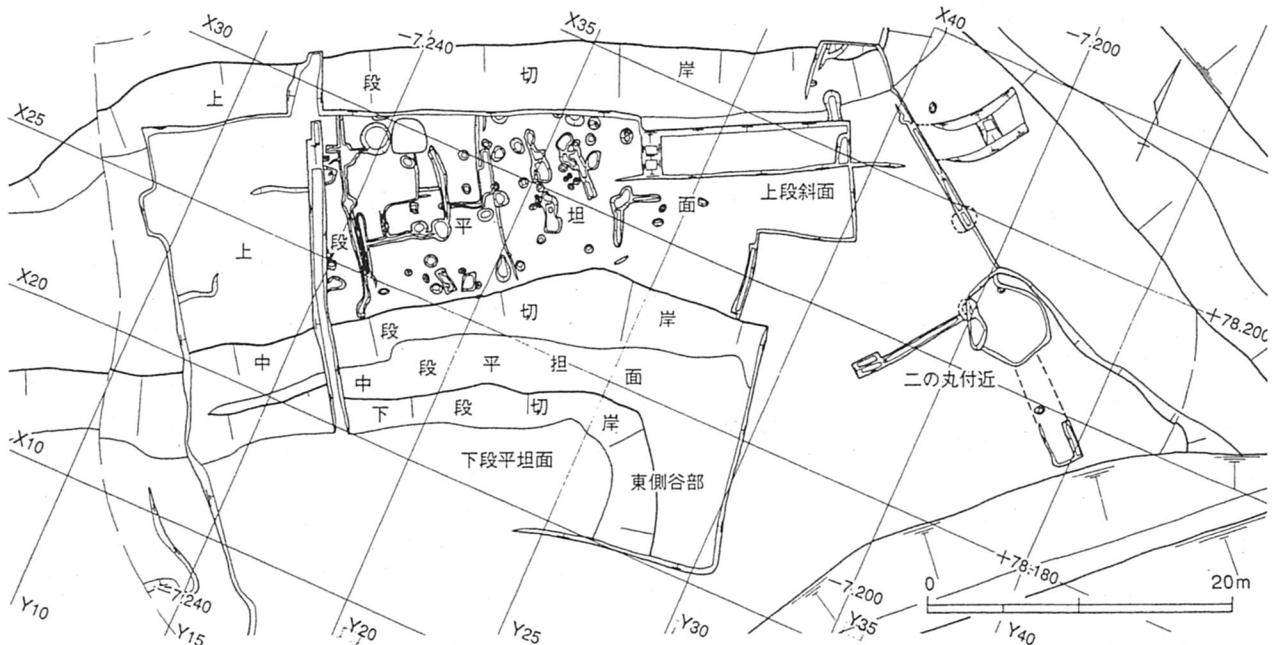
本丸の最上段平坦地（主郭）の南東側には4段の切岸が構築されているが、調査地内には主郭を囲む上段切岸と、中段、下段切岸が存在する。上段と中段の中間には幅12mほどの平坦部があり、土坑等が検出された。さらに下層には弥生後期の溝があり大量の土器が出土した。



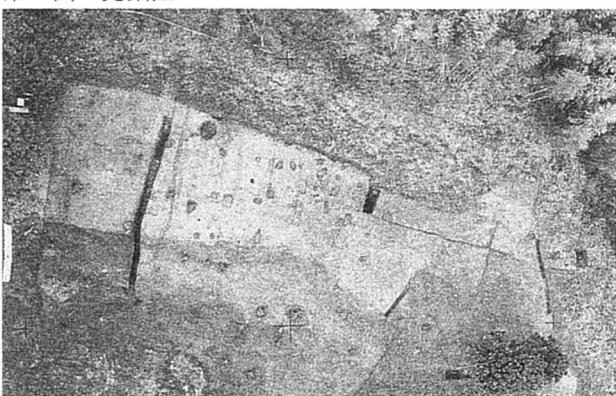
P L. 27 出土遺物



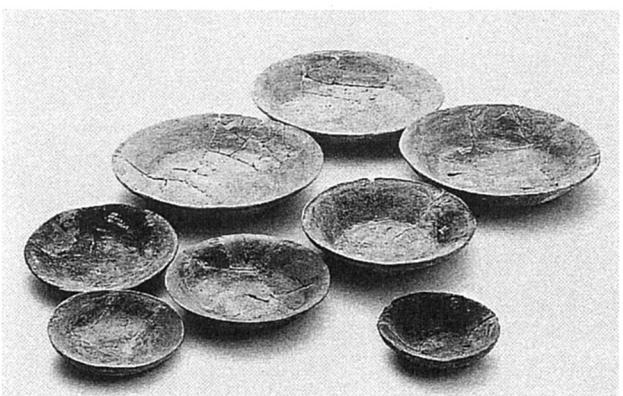
第35図 調査位置図 (1 : 10,000)



第36図 発掘区



P L. 28 調査風景



P L. 29 出土遺物

5. 普及・活用

(1)埋蔵文化財整理室での作業

埋蔵文化財整理室では平成14年度に実施した日宮城跡と平成13年度に実施した県道小杉婦中線にかかる針原西遺跡の報告書作成のため、遺物の分類・復元・実測・トレース・版組み・写真撮影を行うとともに、赤田I遺跡から出土した木製品の水洗と実測を行った。また、未刊行の発掘調査報告書の作成作業も併行して進める一方、現地確認・分布調査・試掘調査を行い、調査によって採集された遺物の水洗・注記・復元・実測などの整理作業を行った。

(2)埋蔵文化財整理室の見学

平成14年度には次の見学があった。5月15日に町健康福祉課主催の歩こう会56名、5月30日に富山県いきいき長寿財団62名、6月13日に保健センター25名、6月17日に小杉小学校3年生33名、6月26日に氷見市民生委員20名、9月4日に射水郡生涯学習団体150名の見学があった。また、5月13日から5月17日まで社会に学ぶ「14歳の挑戦」活動により小杉中学校・小杉南中学校から生徒8名を受け入れた。活動内容は町収蔵の木製品の水替え・水洗のほか、針原西遺跡の土器の復元作業、赤田I遺跡の注記などであった。

(3)報告書などの刊行

平成14年度事業として、小杉町教育委員会が2003年3月に刊行したものは以下のとおりである。

- ①『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 2002年』(A4版16頁)
- ②『日宮城跡発掘調査概要』(A4版54頁)
- ③『赤田I遺跡発掘調査報告書』(A4版90頁)



P L. 30 14歳の挑戦



P L. 31 小杉小学校三年生見学



P L. 32 針原西遺跡の土器復元作業



P L. 33 赤田I遺跡木製品の水洗作業

現地確認・分布調査				試掘調査			本調査		
年度	件数	対象面積(m ²)	延べ調査日数	件数	対象面積(m ²)	延べ調査日数	件数	対象面積(m ²)	延べ調査日数
5	※12	16,865	7	4	1,189	15	6	12,286	362
6	22	54,650	11	8	4,714	19	3	5,304	148
7	27	84,031	21	23	3,079	42	1	400	49
8	29	51,502	17	13	2,159	27	6	6,695	296
9	44	80,519	27	15	7,937	58	3	3,571	219
10	36	58,797	19	15	3,504	36	3	2,767	50
11	24	61,933.96	18	15	3,620.5	39	2	1,253	60
12	22	37,193.83	22	15	1,157.5	35	2	2,080	102
13	16	165,202.84	20	8	2,948.99	31	5	10,620	295
14	18	10,283.2	12	16	6,234.28	49	2	4,374	119

表4 小杉町埋蔵文化財発掘調査件数などの年度別推移（町教委主体調査）

※平成5年度発行の『小杉町埋蔵文化財調査一覧1993年度』以降の調査件数を記載している

	個 人(人)	団 体(人)	団 体(組)	合 計(人)
4月	55	0	0	55
5月	202	172	4	374
6月	33	105	5	138
7月	46	0	0	46
8月	101	0	0	101
9月	75	150	1	225
10月	59	10	1	69
11月	19	11	1	30
12月	26	0	0	26
1月	22	0	0	22
2月	67	0	0	67
3月	42	0	0	42
合計(人)	747	448	12	1,195

表5 年間入館者数

小杉町埋蔵文化財調査一覧 2002年度

平成15年3月31日発行

編集・発行 小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-0393 TEL (0766) 56-1511

印 刷 (株) チューエツ

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

2002年度

2003年3月